

4 徳島県立文学書道館【24,695千円】

文学・書道資料の収集・保存、調査研究に努めるとともに、その成果を展示や催し、教育普及事業等に活かし、広く県内外から親しみ利用される施設となるよう魅力ある事業展開を図る。

(1) 顕彰、表彰事業【1,670千円】

	事業名	概要	金額(円)
1	第17回とくしま文学賞	<p>広く県民から文芸作品(小説・脚本・文芸評論・児童文学・随筆・現代詩・短歌・俳句・川柳・連句の10部門)を募集し、発表の場を提供することにより文芸活動の活性化、県民文化の向上を図る。各部門の入選作品は、「文芸とくしま」に掲載する。</p> <p>応募締切:9月30日(月)当日消印有効 発表:12月中旬(新聞紙上・館内掲示・HP) 表彰式:2020年2月11日(火・祝)</p>	1,670,000
	小計		1,670,000

(2) 年鑑編集・刊行事業【805千円】

	事業名	概要	金額(円)
1	ことのは文庫 「寂聴少女小説集」	<p>瀬戸内寂聴は作家デビューする以前の1950年代に幼名の三谷晴美のペンネームで「ひまわり」や「少女世界」、小学館の学習雑誌に少女小説を執筆し、人気を博していた。その中から12作を収録し、刊行する。</p> <p>文庫本サイズ 1,000部</p>	530,000
2	研究紀要「水脈」16号	<p>館が所蔵する文学者や書家に関する作品や資料等の調査研究を行い、その成果を紹介するために刊行する。</p> <p>B5版サイズ 700部</p>	275,000
	小計		805,000

(3) 教育普及育成事業【3,619千円】

	事業名	概要	金額(円)
1	文学講座 芸術・文化を語る	<p>徳島ゆかりの芸術家や文化人に専門分野の話をしていただき、心豊かな生き方について考える。</p> <p>日時:4月～7月(全4回・各土曜) 会場:講座室</p>	380,000
2	文学講座 テーマ朗読会	<p>展覧会のテーマにちなんだ文章と「反戦」をテーマにした文章を、講座生の中から希望者8人が5分ずつ読み、一般に公開する。</p> <p>日時:5月4日(土・祝)、7月6日(土)(全2回) 会場:講座室</p>	10,000
3	文学講座 若い人たちのための俳句教室	<p>阿南市出身で、城東高校卒業時に第1句集『ひとりの聖域』を出版し、10代の句集として話題となった俳人・大高翔を講師に迎え、若い世代を対象に俳句の鑑賞と実作を行う。若者の俳句への関心が高まっている今、俳句に親しむ機会を提供することで裾野を広げる。</p> <p>日時:5月～9月(全5回・各土曜) 会場:講座室</p>	650,000

(3) 教育普及育成事業

	事業名	概要	金額(円)
4	文学講座 名著講読「恋愛を読む」	恋愛を切り口にして明治以降の名著を読み解く講座。講師は近現代文学が専門の富塚昌輝徳島大学総合科学部准教授。 日時:10月～3月(全4回・各土曜) 会場:講座室	100,000
5	文学講座 短歌を作ろう	「雲珠短歌会」代表で徳島新聞「徳島歌壇」選者でもある竹安隆代氏を講師に迎え、優れた短歌の鑑賞と実作を行う。 日時:9月～2月(全6回・各土曜) 会場:講座室	250,000
6	第18回言の葉朗読会	朗読を楽しみ、朗読の質の向上をめざす人たちに舞台を提供し、朗読を聞くことが好きな人たちにその機会を設ける。朗読愛好家がそれぞれ選んだ文学作品を5分以内で朗読する。 日時: 9月21日(土) 会場:講座室	10,000
7	文学講座 秋の文学講演会	現在、第一線で活躍している作家や詩人、歌人、俳人などを招き、これまでの歩みや自作について話してもらい、文学についての理解を深め、世界や人間の在り方を考える。 日時:10月～11月(全2回) 会場:ギャラリー	500,000
8	書道講座 仮名を学ぶ ちらし書き	仮名講座「単体」「連綿」のまとめとして、仮名特有の「ちらし書き」を学ぶ。「ちらし書き」は仮名の美しさを最も発揮できる日本ならではの構成法で、今回の講座で美しい仮名の書を習得してもらおう。 日時:6月13日、27日、7月4日(全3回・各木曜) 会場:実習室	68,000
9	書道講座 書道創作講座 篆書	これまでに開催の書体別基本講座を踏まえた創作講座。漢字の最も古い書体「篆書」の筆使い、字形、紙面のまとめ方など学習し、創作の方法を学びながら、篆書作品制作の楽しさを味わってもらおう。 日時:9月15日(日)、22日(日)、23日(月・祝) (全3回) 会場:実習室	68,000
10	書道講座 楽しい絵手紙	近年はパソコンやスマホの普及で、手書きで文字を書く機会が少なくなっている。本講座では、絵と文字で気持ちを伝える絵手紙の制作を通して、手書きの良さを味わってもらおうとともに、文字や書に関心をもってもらおう。 日時:7月18日、25日(全2回・各木曜) 会場:実習室	51,000

(3) 教育普及育成事業

	事業名	概要	金額(円)
11	書道講座 名前を美しく書こう	文字にはそれぞれ固有の形の取り方「結構法」がある。それを理解し練習することで美しい文字が書けるようになる。本講座を通して、実生活に生かせる名前の美しい書き方や技法を学ぶ。 日時:2月23日、3月8日(全2回・各日曜) 会場:実習室	44,000
12	書道講座 外国人のための書道講座	外国人対象の書道講座。筆の持ち方や基本的な筆遣い、美しい文字の形を学び、小品を制作する。 日時:10月 会場:実習室	22,000
13	書道講座 書の鑑賞 近代詩文書	一昨年度の仮名、昨年度の漢字に続く書の鑑賞講座。近代詩文書の傑作や名品を分かりやすく解説し、その美しさや魅力について理解を深めてもらう。 日時:未定 会場:講座室	182,000
14	書道講座 新春 書き初め 大字に挑戦!	小学生対象の講座。新年の書き初めにちなんで、漢字一字を特大筆(全長46cm・穂長14.5cm・穂径4cm)で68×70cmの紙に書く。大字を書くことで、書に親しみ、書の楽しさを知ってもらう。 日時:1月13日(月・祝) 会場:講座室・実習室	54,000
15	ことのはロビーコンサート	従来の文学・書道ファンだけでなく、より多くの県民に文学書道館の存在を知ってもらい、さらに足を運んでもらって、文学・書道と音楽の深いつながりを気軽に楽しく体感してもらおう。実施日を展覧会の開催期間と重ねることで、観覧者増を図る。 日時:5月～3月(全6回・各日曜) 会場:1階ロビー	1,230,000
	小計		3,619,000

(4) 展示事業 【18,601千円】

	事業名	概要	金額(円)
1	文学常設展 瀬戸内寂聴記念室 (常設展示事業)	瀬戸内寂聴の人生をたどりながら寂聴文学を紹介する。嵯峨野「寂庵」を模した書斎や、心和む日本庭園を設置している。また、年1回程度の展示替えを行っている。 期間:通年 会場:瀬戸内寂聴記念室	
2	文学常設展 文学常設展示室 (常設展示事業)	徳島の人・場所・文化が織りなす文学回廊。徳島ゆかりの文学者とその作品、著名作家が徳島を描いた文学作品などをさまざまな角度から紹介している。展示室では、年2回の企画展も開催している。 期間:通年 会場:文学常設展示室	

(4) 展示事業

	事業名	概要	金額(円)
3	文学常設展 収蔵展示室 (常設展示事業)	瀬戸内寂聴寄贈による日本近代女性史の貴重な研究資料など、豊富な資料を保管している収蔵庫内をガラスウォールを通して公開している。また、特別展に関連した展示や収蔵品を紹介する。 期間:通年 会場:収蔵展示室	
4	書道常設展 書道美術常設展示室 (常設展示事業)	収蔵品の中から、徳島ゆかりの書家の作品を中心に展示している。また、小坂奇石の息づかいが感じられる書齋を再現している。 年3回展示替えをし、豊富な作品を幅広く紹介する。 期間:通年 会場:書道美術常設展示室	
5	文学特別展 寂聴の少女小説—三谷晴美と 憧れの挿絵画家たち (特別展示事業)	瀬戸内寂聴は作家デビューする前に少女小説を書いて生計を立てていた。幼名である三谷晴美のペンネームで9年にわたり、雑誌「少女世界」や「ひまわり」、小学館の学習雑誌に少女小説を多数執筆し、人気を博した。本展では代表的な作品を叙情的な挿絵とともに紹介する。また、当時の少女たちの人気を集め、寂聴も憧れていた落谷虹児らの絵画も展示する。 期間:4月9日～5月26日 43日間 会場:特別展示室・ギャラリー・収蔵展示室	2,770,000
6	書道特別展 小坂奇石小品展—秘められた 思いの数々 (特別展示事業)	小坂奇石(1901～91年)は、独創的で他の追随を許さない独自の書風を確立した、昭和を代表する書家である。当館では、遺族より寄贈された作品を中心に約500点の作品を収蔵しており、毎年それらの中から選りすぐりの作品を紹介している。今回は小作品をテーマとし、洒脱な書きぶりや飄々とした筆致など、気概あふれる書で知られる奇石とは違った趣の作品を展示。奇石書の多彩な魅力を紹介する。 期間:6月21日～8月4日 39日間 会場:特別展示室・ギャラリー	2,217,000
7	文学特別展 くすのきしげのりの世界 (特別展示事業)	『おこだでませんように』(2009年度青少年読書感想文コンクール課題図書)、『メガネをかけたら』(13年度同)など話題の絵本を数多く出している徳島在住の児童文学作家くすのきしげのりを紹介する展覧会。 期間:8月10日～9月23日 40日間 会場:特別展示室・ギャラリー	2,770,000

(4) 展示事業

	事業名	概要	金額(円)
8	書道特別展 没後20年 久保幽香展 (特別展示事業)	久保幽香(1930～99年。徳島県那賀郡那賀町出身)は、22歳で県展特選、31歳で日展に入選(以後15回、後に会友となる)し、若い頃から受賞を重ねた。県立高校や徳島文理大学で書道講師を務める傍ら、幽香書院(後に東玄書道会と改称)を創設し、自身の創作活動とともに、近代詩文書の普及と後進の指導にも情熱を注いだ。49歳からは近代詩文書を創始した金子鷗亭に師事し、金子が創設した創玄書道会や、毎日書道展の審査員を務めるなど中央でも活躍。海外でも作品を発表した。没後20年にあたり、徳島県内女流書家の第一人者であった久保幽香の書作品と業績を紹介する。 期間:10月4日～11月17日 39日間 会場:特別展示室・書道美術常設展示室	3,060,000
9	文学特別展 現代詩歌の冒険—徳島の詩人・歌人・俳人たち (特別展示事業)	現代詩歌の分野で活躍する徳島ゆかりの詩人、歌人、俳人各2人の計6人を取り上げ、代表作や作品の魅力を紹介する。また、収蔵展示室では徳島(ふるさと)をテーマにした6人の作品を展示し、それぞれの徳島への思いにも触れることのできる展示とする。 期間:12月14日～2月11日 44日間 会場:特別展示室・収蔵展示室	2,630,000
10	書道特別展 徳島に眠るお宝の書 (特別展示事業)	徳島県在住の個人が所蔵する書画などを紹介する展覧会。個人所蔵の書画は、学書や鑑賞用に収集されたもので、一般に公開されることはほとんどない。そこで、本展では“家宝”として眠っている書画を掘り起こし、広く県民に紹介する。 期間:2月15日～3月22日 32日間 会場:特別展示室・書道美術常設展示室	3,090,000
11	文学企画展 東京五輪と文学 (企画展示事業)	2020年の東京オリンピックを翌年に控え、1964年に開催された東京五輪を文学を通して振り返る。その閉会式で歌われた「オリンピック賛歌」(パロマ作詞、サラマ作曲)を訳詞した徳島生まれの詩人・野上彰、柔道の観戦記を書いた徳島生まれの作家・瀬戸内晴美(現・寂聴)、当時はあまり注目されていなかったパラリンピック観戦記などを書いた徳島ゆかりの評論家・中野好夫らを紹介する。 期間:6月15日～8月31日 69日間 会場:文学常設展示室	398,000
12	書道企画展 中林梧竹の篆書と隸書 (企画展示事業)	中林梧竹は明治の三筆に挙げられる書家である。当館では、海老塚の伝氏より寄贈された傑作を中心に約300点の作品を収蔵しており、毎年梧竹の展覧会を開催している。これまで企画展としては、「楷書」「行草書Ⅰ」「行草書Ⅱ」「長条幅」を開催しており、今回はその5回目。当館が所蔵する中林梧竹の篆書と隸書の優品を紹介する。 期間:6月18日～10月1日 92日間 会場:書道美術常設展示室	275,000

(4) 展示事業

	事業名	概要	金額(円)
13	文学企画展 文学者の見たモラエス (企画展示事業)	ポルトガルの軍人および外交官として日本に長く滞在し、『日本精神』『おヨネとコハル』『徳島の盆踊り』など、優れた日本文化論を本国ポルトガルに発信し続けたヴェンセスラウ・デ・モラエス(1854-1929年)。徳島に隠棲し、孤独な死を遂げたその生涯を、同時代あるいは後世の文学者たちはどのように見ていたのか。引用と写真を用いて紹介する。 期間:11月8日～2月9日 75日間 会場:文学常設展示室	452,000
14	書道企画展 第4回 書道創作グランプリ (企画展示事業)	徳島県内の小学校4年生から高校3年生までを対象とする書道コンクール。作品応募による予選を行い、予選通過者を対象に当館で本選を実施。本選当日に課題を発表し、お手本なしで創作する全国でも稀なコンクールである。席書作品270点(各学年30点。高校は「漢字」「漢字仮名交じり」「仮名」の3部門各30点)と招待出場者(これまでのグランプリ受賞者、準グランプリ2回受賞者)の作品を展示し、各学年・部門のグランプリ、準グランプリ、金賞受賞者約90人を表彰する。 期間:11月30日～12月11日 10日間 会場:ギャラリー	857,000
15	書道企画展 「今年の一字」展2019 (企画展示事業)	「一年を振り返って、今年を象徴する漢字一字、あるいは思い出に残る漢字一字」を募集し、全ての応募作品をロビーに展示する。作品は、葉書大とし、毛筆で書いたものとする。 期間:12月12日～27日 14日間 会場:1階ロビー	82,000
	小計		18,601,000
	合計		24,695,000